
互いに思いやり、共感する心を持ち、 よりよく生きようとする生徒の育成

－ 体験的な活動等を生かした道徳の時間の指導を通して－

渋川市立金島中学校

- 校 長 須田 昭司
- 生徒数 194名
- 学級数 7学級
- 執筆者 金島中研修推進委員会
- 住 所 〒377-0027 渋川市金井2007番地1
- 電 話 0279-22-2547
- U R L <http://www.kanashima-j.ed.jp/>
- 研究所 渋川市教育研究所



1 はじめに

本校の学区は、昔から居住し地域のつながりが強い所と近年になって造成された住宅地など比較的地域内のつながりが弱い所が混在しており、地域行事が盛んな地域とあまり盛んでない地域がみられる。生徒は学年が上がるに伴い地域行事に参加しなくなり、地域の大人との交流は少なくなる傾向がある。また、一小学校一中学校の学区であり、9年間学校生活を共にする生徒が多い。互いに分かり合えているよい面もあるが、人間関係が固定化したりトラブルがその後の人間関係に影響したりして、道徳性をはぐくむ上で豊かなかわりが不足している面も見られる。

そこで、道徳の時間に学校生活の体験的な活動等を生かすことで、生徒同士のかかわりを豊かにしようと考えた。また、家庭への啓発活動や地域行事への参加を積極的に働きかけることで、生徒の社会性をはぐくむ体験を充実して道徳性を高めようと考えた。

このように、学校・家庭・地域での連携・協力を道徳の時間でつなぐことで、豊かな心をもたせる学校づくりに取り組んだ。

2 研究のねらい

学校生活の様々な体験的な活動等を生かして道徳の時間の指導を工夫したり、家庭や地域と連携・協力したりすることで、互いに思いやり、共感する心を持ち、よりよく生きようとする生徒を育成する。

3 研究の見通し

体験的な活動等を生かして、道徳の指導を次のように工夫する。

(1) 道徳の指導計画の充実

体験的な活動等の時期と道徳の時間を合わせた道徳教育の全体計画・道徳の時間の年間指導計画を作成することで、道徳の時間を道徳教育の中核に位置付け、中学校3年間を見通して体験活動を生かした道徳の時間の指導ができるであろう。

(2) 道徳の時間の工夫

道徳の時間では、体験的な活動等を授業の導入部・展開部・終末部にそれぞれ工夫して取り入れることで、共通する体験を基にした話合いや学び合いを深めることができ、思いやりや共感する心が豊かになるであろう。

(3) 家庭・地域との連携・協力

道徳日より「心のはぐくみ」の発行や「心のはぐくみクリアファイル」などの啓発活動、地域の行事へのボランティア参加を促す「地域ふれあいカード」や「クリーン作戦」の共同実施などに家庭・地域・学校が連携・協力して取り組むことで、生徒に家庭や地域の一員としての自覚をもたせ、よりよく生きようとする生徒を育てることができよう。

4 研究の基本的な考え

思いやりの心は、他の人の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。その心の奥には人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならない。相手を思いやり共感するためには、よりよい人間関係を築き、集団の一員としてよりよく生きようとするのが大切である。本校では、これらの資質・能力をはぐくむために、道徳の内容項目について実態調査などから、「思いやり」「友情」「感謝」「集団の意義」を重点として指導することを考えた。これらの内容項目を基に、図1に示すように、各学年の目指す生徒像を設定し、道徳

教育を中学校3年間積み上げることで、本校の目指す生徒像に迫ろうと考えた。

そのためには、学年が進むごとに生徒の道徳的価値が深まるように、各学年で取り組む学校行事などの体験的な活動を、重点とする内容項目に関連させて計画的に道徳の時間に生かしていく必要がある。そこで、道徳の全体計画や年間指導計画などに体験的な活動を位置付けるとともに、別業として各教科等における道徳教育の指導計画や学級の指導計画を作成することで、体験的な活動を効果的に生かすことを工夫した。

また、生徒に培った道徳性をしっかりはぐくむためには、家庭・地域との連携・協力は欠かせない。家庭・地域を道徳教育の基盤と考え、学校で扱う内容や取組を知らせ、道徳教育の大切さを啓発する。さらに、親子の交流や地域行事のボランティア参加を通して、生徒に家庭・地域の一員としての自覚を深めさせるとともに、家庭・地域と連携して道徳教育を推進しようと考えた。

これらのように道徳の時間を要として、体験的な活動等を生かし、中学校3年間に道徳の指導を積み上げることで、目指す生徒像に迫ろうと考えた。

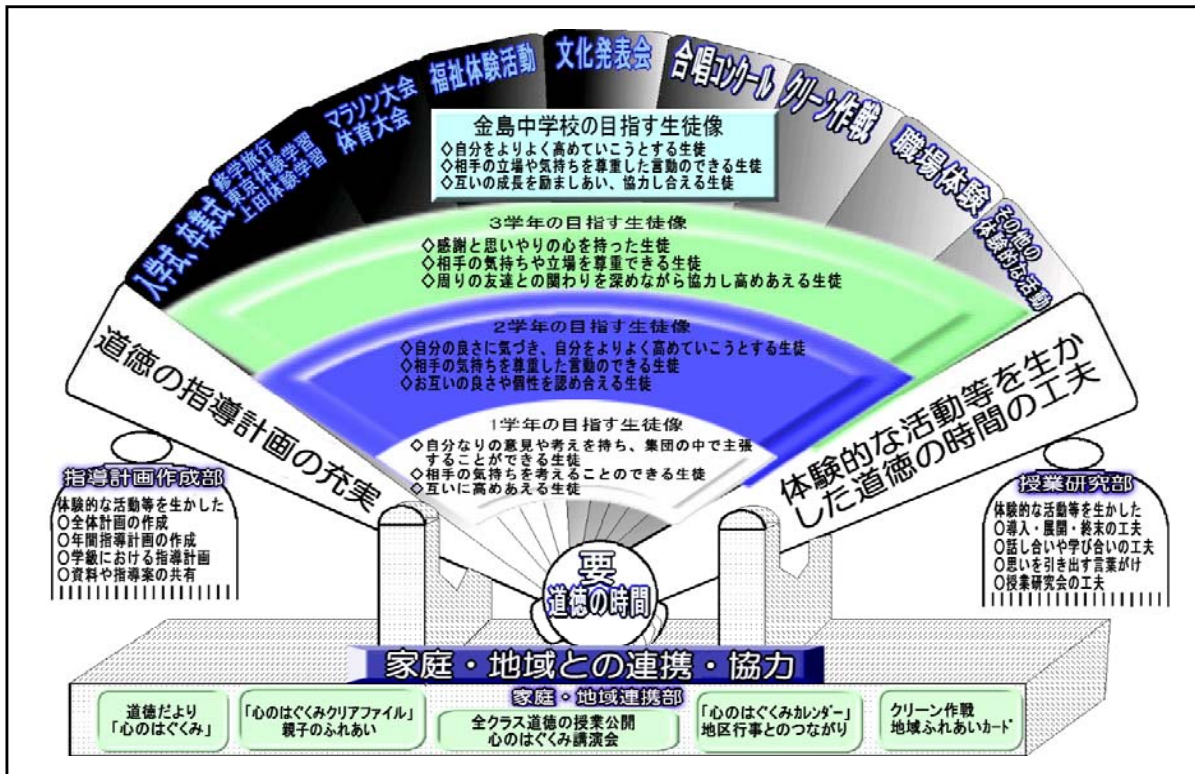


図1 全体構想図

5 研究の取組

(1) 道徳の指導計画の充実

道徳教育の要である道徳の時間と体験的な活動等との関連に視点を当て、全体計画、年間指導計画などを見直し、各教科等及び学級の指導計画などを作成した。

ア 道徳教育の全体計画

全体計画を見直すに当たって、本校の教育目標や目指す生徒像、生徒の実態、保護者の願い、地域の願いなどから「思いやり 2-(2)」、「友情 2-(3)」、「感謝 2-(6)」、「集団の意義 4-(4)」の4項目を重点とする内容項目として導き出した。これらを道徳教育の中心に位置付けることで、重点的な道

徳教育が展開できるように全体計画を見直した。また、各教科等との関連を分かりやすくするために、表1のように全体計画の別葉として教科別に「道徳教育に関連する題材一覧表」を作成した。

イ 道徳の時間の年間指導計画

道徳の時間の年間指導計画を作成するに当たっては、表2に示す題材配列表を作成し、重点とする内容項目の指導を充実させ、3年間を見通して目指す生徒像に迫れるように題材を配列した。これを基に道徳の時間の年間指導計画では、体験的な活動等と関連する題材の指導する時期を合わせることで、体験的な活動等を生かした道徳の時間の指導ができるようにした。

表1 全体計画の別葉（道徳教育に関連する題材一覧）

【平成22年度】		道徳教育に関連する題材一覧表(国語科)			(道徳教育全体計画別葉1)
※内容項目の太字は、道徳教育における重点項目を指す。 ※◎は、道徳と関連のある内容のうち、その学年で道徳との関連を特に意識して指導する単元・題材を指す。					
ねらい	内容項目	単元名や題材名			
視点		1 学年	2 学年	3 学年	
1 主として 自分自身に関すること	(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。				
	(2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。		◎ 詩「春に」 小説「走れメロス」		アラスカとの 出会い
	(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。				
	(4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。				詩「わたしを 束ねないで」 未来に 向かって
	(5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	詩 「野原はうたう」		視点を变えて 書こう	
2 主として 他の人とのかわりに関すること	(1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。				敬語
	(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。				小説 「握手」
	(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。				
	(4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。	小説 「妻わら帽子」			
	(5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。	スピーチ 「発見したこと を伝え合う」	スピーチ 「提案のしか たを考えよう」		スピーチ 「相手を意識 して伝えよう」 温かいスープ
	(6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。	◎ 「手紙を書こう」			

表2 道徳の時間の題材配列表

※ゴシック体は重点とする内容項目を指す。

学期	月	時間	1 年	2 年	3 年	学校行事	生徒会活動	その他
1 学期	4	1	【心と形】 おはよう 2-(1)	【適切な言動】 ひとことのカ 2-(1)	【心の触れ合い】 ごあいさつのすすめ 2-(1)	始業式・入学 式学力テスト 離任式		
		2	【集団生活の向上】 席がえ 4-(4)	【愛と感謝】 愛 2-(2)	【心の力】 モーニング・コール 2-(2)	部活動説明 会	専門委員会 部活動説明会 部活動編成会議	歯科検診 内科検診 眼科検診
		3	【心がけたいこと】 小さなしつけ 1-(1)	【望ましい生活習慣】 ばなしの女王 1-(1)	【心身の健康】 0.5の世界 1-(1)	自然体験学 習(1年)		耳鼻科検診 尿検査 学習状況調査
	5	4	【責任の自覚】 増えた塩ます 1-(3)	【自分のよさ】 自分は自分だからよい 1-(5)	【規則の意義】 二通の手紙 4-(1)	家庭訪問		尿検査 中体連春季大 会
		5	【やりぬく心】 九番バッテリー 1-(2)	【苦難に耐えて】 まつばづえ 1-(2)	【希望を求めて】 青い鳥 1-(2)	家庭訪問 修学旅行	専門委員会	心臓検診 貧血検査

○生徒の道徳性の実態

- ・新指導要領で示された内容項目の四つの視点から見ると、「1」の視点が他学年と比べて低い。特に1-(3)、1-(4)が低い。自分に對して厳しい見方をしている生徒が多いことがわかる。
- ・「2」では2-(4)が高く、実際に男女の仲がよくて、学級全体はおだやかで明るい雰囲気である。
- ・「3」は全体的に高く、命や自然に対する意識の高い生徒が多い。
- ・「4」では、4-(4)、4-(5)が比較的高い。実際に、家庭での学習習慣も身に付いている生徒や、清掃活動や係活動などもまじめに行える生徒が多い。

○道徳教育の指導方針

- ・道徳教育においては、道徳の時間を要として、学校教育全体を通じて生徒の道徳性の向上を図る。
- ・中学校生活に慣れる過程で、ルールの尊重と個性の尊重との関係について考えさせ、互いに励まし合える環境づくりに努める。
- ・学校生活に対する目標を考えさせながら、中学生として明瞭で前向きな生活習慣を身に付けさせる。
- ・新しい環境の中で他人とかかわり合う中で、自分と周りの人(相手)との関係や、集団における自分の役割について意識を深めさせる。

○道徳の時間の指導方針

- ・道徳の時間においては、生徒や地域の実態把握から「自主・自律」「個性の伸長」「思いやり」を重点項目として設定し、年間指導計画の中で重点的な位置付けを行い、指導の重点化を図る。
- ・学校行事、総合的な学習の時間などにおける体験的な活動等を道徳の時間に生かし、生徒が道徳的価値に近付いたり深めたりしやすくなるような指導の工夫を図る。
- ・友達の考えを聞く、自分を振り返って考える、自分の考えを書く活動を通して、自己の生き方について自覚を深められる時間にする。
- ・発表する、話し合う、振り返る活動を通して、一人一人が伸び伸びと考えや思いを広げられる時間にする。

○道徳の時間と体験的な活動等

月	ねらい	道徳の時間の主題名	主となる 体験的な活動等	体験的な活動等			反省 評価
				学校行事・総合的な学習	生徒会活動	その他	
4		【心と形】 2-(1) 【集団生活の向上】 4-(4) 【心がけたいこと】 1-(1)	自然体験学習	始業式・入学式 学力テスト 離任式・自然体験学習	部活動説明会 部活編成 専門委員会①	内科検診 眼科検診・学習状況調査 歯科検診・耳鼻科検診	
5	中学校生活に慣れ、学校やクラスの一員として友だちと協力しながら学校生活をよりよく過ごそうとする態度を育てる。	【責任の自覚】 1-(3) 【やりぬく心】 1-(2) 【反省と努力】 1-(5)	マラソン大会	家庭訪問 マラソン大会	専門委員会②	中体連市手大会 昇降台 心臓検診・貧血検診	
6		【自主と責任】 1-(3) 【自己を見つめて】 2-(5) 【男女の協力】 2-(4) 【心にゆとりをもつ】 1-(5)	少年の主張	避難訓練① 漢字コンテスト① 少年の主張 道徳授業公開(授業参観)・期末テスト	生徒総会	「心のノート」の活用による家庭との連携① 中体連総合体育大会	

ウ 学級における道徳教育の指導計画

各学級では、生徒の実態に応じて道徳の時間と学校行事との関連を考慮し、道徳教育を計画的に実施するために、表3のような「学級における道徳の指導計画」を作成した。生徒の実態に基づいた指導方針や、道徳の時間と体験的な活動等との関係を明らかにすることで、きめ細かな道徳の指導を行うことができるようにした。

(2) 体験的な活動等を生かした道徳の時間の工夫

ア 体験的な活動等を道徳の時間に取り入れる工夫

道徳の時間には、体験的な活動等を効果的に取り入れるポイントとして、授業展開の導入部・展開部・終末部に、図2のような工夫をした。

具体的には、導入部に体験的な活動等を生かす授業では、学校生活や体験的な活動等の中から共通の問題意識をもたせるようにした。導入部で生徒が共通に体験している活動等を振り返り、本時の道徳的価値を焦点化する。生徒は共通の体験を基に、読み物資料か

ら導き出される発問や主人公の思いについて主体的に考え、共感したり葛藤したりしながら道徳的価値を深めていくことができた。

展開部に体験的な活動等を生かす授業では、読み物資料の登場人物の行為や心情を、生徒が体験的な活動等で培ったことと比較検討することで、共感したり葛藤したりして道徳的価値を深めることができた。

終末部では、本時で深めてきた道徳的価値について、自分の体験を基に自分を深く見つめるようにした。これからの生き方を考える際には自分の体験を生かすことで、よりよく生きようとする自分に気付くことができた。

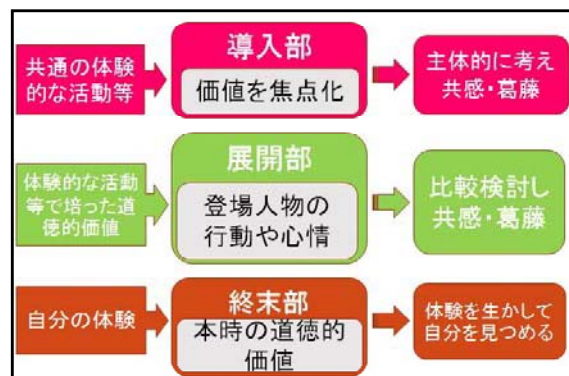


図2 体験的な活動等を取り入れるポイント

イ 話合いや学び合いの工夫

道徳的価値について話合いや学び合いを深めるためには、生徒が自分の考えをもつことが大切である。自分の考えを整理し表現するために、ワークシートに自分の考えを書く時間を十分にとった。それを基に話し合うことで、自分の考えと他の生徒の考えとを比較し、共感したり葛藤したりすることができた。また、話合いを充実させるために、4～5人の班編成にした。さらに、話し合った内容を図3のようにホワイトボードに記入し、黒板に張り出すことで多くの生徒の考えに触れるようにした。自分とは異なる考え方に接する中で、相手の意見を尊重したり自分の考えを見直したり深めたりすることができた。



図3 ホワイトボードを活用した話合い

(3) 家庭・地域との連携・協力

ア 道徳だより「心のはぐくみ」

本校の道徳教育の取組について道徳だよりを発行して家庭や地域に知らせることで、家庭・地域と学校が一体となって道徳教育を推進するようにした。道徳の授業内容や生徒の感想、今後の授業予定など、本校の取組を紹介しながら道徳教育を啓発した。

イ 心のはぐくみクリアファイル

「親から子へ伝えたい言葉」「子から親へ伝えたい言葉」をクリアファイルの表裏に印刷したものである(図4)。それぞれの言葉は毎学期に保護者と生徒から募集して選出した。道徳だよりなどの配布物をはさんで家庭に届けることで、親子間の交流のきっかけとするとともに、家庭と学校をつなぐパイプ役

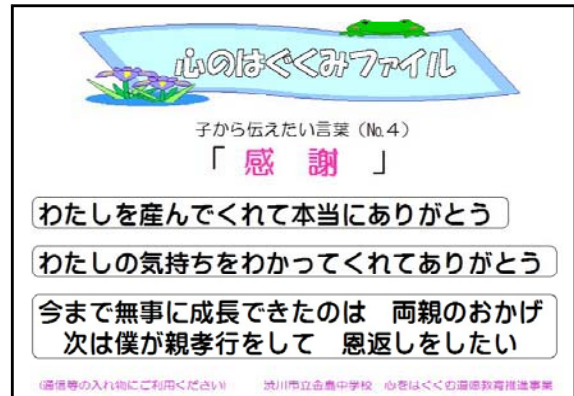


図4 心のはぐくみクリアファイル

を果たすようにした。生徒や保護者の多くから「伝えたい言葉」に共感し、心を温かくして、親子の心のつながりを深めるきっかけになったという感想を聞くことができた。

ウ 道徳授業公開日

本校の道徳教育への理解と興味・関心を高めるために、授業公開日には、すべての学級で道徳の授業をしている。保護者には道徳の授業を通して、子どもの考えを知り、本校で取り組んでいる道徳教育に理解が深まるようにしている。

エ 心のはぐくみ講演会

生徒・保護者を対象に、道徳の内容項目にかかわる講演会を年1回実施している。ぐんま昆虫の森矢島稔園長から「おや不思議!?自然の神秘と昆虫の世界」(畏敬の念)、落語家立川朝志師匠には「思春期のご近所付き合い」(寛容の心)についてご講演をいただき、豊かな心をはぐくみながら親子の心の交流に役立てている。

オ 心のはぐくみカレンダー

学校行事と家庭・地域行事との連携・協力を推進するために、図5のようなA3判のカレンダーを3ヶ月ごとに作成する。学校行事・地域行事を記入した欄と家庭の予定を書き込める欄を設けて、各家庭と地域に配付している。カレンダーの図案は、主に本校の美術部の生徒が作成している。また、地域の主要な行事前には、保護者に案内通知を配付して、生徒の参加について家庭の協力を呼びかけた。これらの結果、地域行事に生徒の参加が多くなり、社会体験を豊かにする上で役立っている。



心をはぐくむ道徳教育推進事業 流州市立金島中学校

4月の行事				5月の行事				6月の行事			
日	学校	地域	家庭	日	学校	地域	家庭	日	学校	地域	家庭
1	大			1	大			1	大		
2	中			2	中			2	中		
3	小			3	小			3	小		
4	大			4	大			4	大		
5	中			5	中			5	中		
6	小			6	小			6	小		
7	大			7	大			7	大		
8	中			8	中			8	中		
9	小			9	小			9	小		
10	大			10	大			10	大		
11	中			11	中			11	中		
12	小			12	小			12	小		
13	大			13	大			13	大		
14	中			14	中			14	中		
15	小			15	小			15	小		
16	大			16	大			16	大		
17	中			17	中			17	中		
18	小			18	小			18	小		
19	大			19	大			19	大		
20	中			20	中			20	中		
21	小			21	小			21	小		
22	大			22	大			22	大		
23	中			23	中			23	中		
24	小			24	小			24	小		
25	大			25	大			25	大		
26	中			26	中			26	中		
27	小			27	小			27	小		
28	大			28	大			28	大		
29	中			29	中			29	中		
30	小			30	小			30	小		

図5 心のはぐくみカレンダー

カ クリーン作戦

生徒が地域の一員としての自覚を高めるために、自治会や老人会、保護者の方々と一緒に地域清掃を実施している。清掃後には、地域の方々と歓談する機会を設け、ふれあいを深めるようにした。生徒は、地域の方々と会話する中で人としてのよりよい生き方や在り方に気付き、地域の一員としての自覚を高めることができた(図6)。



図6 クリーン作戦の様子

キ 地域ふれあいカード

生徒が積極的に地域行事に参加し活動できるように、図7のような「地域ふれあいカード」を作成した。参加したら地域の方からサインをもらい、感想をまとめる。公民館運営

委員会を通してカードの趣旨や活用方法を地域に周知するとともに、生徒には地域行事の運営にボランティアで活動するように促している。生徒の感想から「地域の方と交流できてうれしい」「地域の役に立った」など、社会性をはぐくんでいる様子がよく分かった。地域と学校が連携・協力しながら生徒の社会性を高め、地域の一員としての自覚をもたせることができた。

地域ふれあいカード			
年 組 番 氏 名			
金島地区には、中学生の皆さんが活躍できる地域の催しや活動がいろいろあります。ぜひ、積極的に参加しましょう。			
この「地域ふれあいカード」は、みなさんの地域活動への参加を確認するものです。地域行事等に参加した際、行事の主催者の方や、地域の方に、ハンコまたはサインをもらいましょう。			
日付	行事・活動	ひとこと感想	地域の方のサイン
7月 11.12.14	川島納涼祭 お囃し管種習	みんなの前で笛を吹くのは 久しぶりだし、まあまあ吹け て、よかった。楽しかった。	飯塚
7月 21.24.25 26.29.31	リンゴの里 納涼祭 おはなし練習(笛)	たくさん笛を吹けて、 よかった。今年も おたいてい。	飯塚
8月 1	リンゴの里 納涼祭	暑くて大変だったけど、 地域の方と交流ができて 楽しかった。	飯塚
8月 14.15	流川山まつり参加	たのしい時間を過ごす もつなを引いてお話し できて良かったです。	峰岸

図7 地域ふれあいカードの記入例

6 おわりに

道徳の時間に学校行事での体験的な活動等を生かすことで、思いやりや共感する心を持ち、よりよく生きようとする生徒の育成に取り組んだ。道徳の時間を要として中学校3年間を見通した道徳教育の指導計画を立てることや、道徳の時間に体験的な活動等を効果的に取り入れるポイントを明らかにすることができた。また、家庭・地域と連携して道徳教育を推進し、生徒が地域行事に参加して地域の方々とふれあい、地域の一員としての自覚を高めることができた。

今後の課題としては、「学級における道徳教育の指導計画」を活用して、その学級にかかわる各教科等の担当が学級担任とともに組織的・継続的にきめ細かく道徳教育を推進できるようにしていきたい。